

研究協力をお願い

昭和大学病院および昭和大学病院附属東病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

研究題名：骨粗鬆症治療薬が腎機能に与える影響
<p>1. 研究の対象および研究対象期間</p> <p>2015年1月から2019年11月の間に、整形外科骨粗鬆症診に通院された方。</p>
<p>2. 研究目的・方法</p> <p>日本は世界有数の高齢化国です。自立した生活を続けられるようにするため、あるいは介護の負担軽減のために、骨折を予防し寝たきりにならないようにすることが大切です。そのためには骨粗鬆症治療が不可欠となります。ところが、年齢とともに腎機能は低下してくるため薬剤による腎臓への負担も危惧されます。そこで、腎機能に影響の少ない骨粗鬆症治療薬は何かというテーマで、調査を行うことにしました。</p> <p>対象は昭和大学病院または昭和大学病院附属東病院の骨粗鬆症外来に通院中の患者さんで、65歳から99歳の600例を解析対象予定としています。骨粗鬆症治療開始時と1年後の腎機能を調査します。腎機能は、血清クレアチニン、推算糸球体濾過値（eGFR）、クレアチニークリアランス（CCr）を測定します。使用した薬剤は、PTH製剤、SERM製剤、エルデカルシトール、抗RANKL抗体製剤、アレンドロネート、リセドロネート、ミノドロネート、イバンドロネート、ゾレドロネート、食事および運動療法の各群になります。</p> <p>研究期間</p> <p>「医学研究科 人を対象とする研究に関する倫理委員会」承認後、病院長の研究実施許可を得てから2020年12月31日まで。</p>
<p>3. 研究に用いる試料・情報の種類</p> <p>2015年1月1日から2019年11月30日までに昭和大学病院整形外科または昭和大学病院附属東病院整形外科において骨粗鬆症の該当薬剤で治療されている患者診療録の中から、骨粗鬆症治療開始時と</p>

1年後の腎機能を調査します。腎機能項目（血清クレアチニン、推算糸球体濾過値（eGFR）、クレアチニンクリアランス（CCr））と患者背景（年齢、性別、身長、体重、診断病名、既往歴、現病歴、併用薬）を使用します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学病院附属東病院整形外科 氏名：永井隆士

住所：142-0054 東京都品川区西中延 2-14-19 電話番号：03-3784-8000(代表)

研究責任者：永井隆士